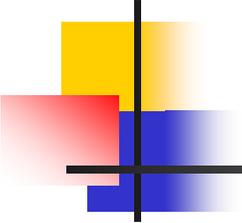


保育士資格受験制度の緩和に関して

2007年9月14日

株式会社パソナ・シャドーキャビネット



1. はじめに

- 現在、保育をめぐる環境ではさまざまな問題が発生しております。特に顕著な問題は「保育の機会の少なさ」です。保育所の待機児童数は毎年2万人近くで推移しています。近年の政府の施策により、待機児童は減少傾向にあります。依然として都市部を中心に保育所に子供を預けられないために社会復帰できない女性が多いことも現状です。子育てをしながらいきいきと働く女性が増えている中、一方では、保育体制が十分整っていないために、出産を機に会社を辞めざるを得ない女性や、出産そのものを躊躇する女性もいるという現状があります。また、待機児童の問題は働く女性の出産への不安感にもつながり、少子化の一因となっているともいえます。
- 私たち株式会社パソナ・シャドーキャビネットでは、さまざまな角度から社会の問題点を議論し、提言する活動を行っております。その一環として働く女性の支援の観点から保育制度の充実について、研究を行ってまいりました。その中で保育士の絶対数の不足、という観点に着目し、「保育士の受験資格制度」について緩和することで、多くの女性が生き生きと働くことの出来る社会の実現を提案していきたいと考えております。

2-1. 保育をめぐる問題

～ 保護者の立場から ～

必要なときに必要な保育の機会に恵まれない

- 保育所へ入所を希望しても、定員が一杯で仕事をやめざるを得ないケースがある。

* 平成19年4月1日現在 全国の待機児童数17,926人

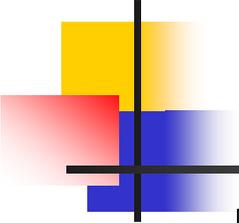
上位3都市: 大阪市744人・横浜市576人・神戸市489人

(2007/9/7厚生労働省発表数字 別紙1.2参照)

- 受け入れ枠が増える4月・5月産まれ以外の子供を持つ母親は育児休業期間の延長をやむなくさせられることが多い。
- 保育の機会への不安から出産を躊躇する働く女性も多い。

* 平成18年度合計特殊出生率1.32

(2007/9/7発表 厚生労働省 人口動態統計より)



2-2. 保育をめぐる問題 ～ 保育士の立場から～

保育士としての継続勤務が困難である

- 子供の人数に対して保育士の人数が少なく、
保育人当たりの業務負担が大きい。
- 賃金が比較的低い。

* 月給: 手取り20万以下

* 時給: 1000円～1200円程度という条件が多い

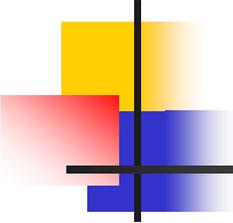
- 早朝出勤や休日勤務・サービス残業が多い。

2-2. 保育をめぐる問題

～ 保育士希望者の立場から ～

保育士資格受験のハードルが高い

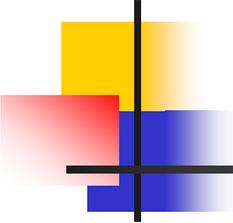
- 学歴が専門学校または短大卒以上でない人は、実務経験がないと保育士資格の受験ができない。
- 受験資格である実務経験をつみたいが求人は「要資格」のものばかり。
- 仕事には興味があるが、現在より就業条件が落ちるため、保育士受験・保育士として働くことを躊躇してしまう。
- 専門教育を受けていない人の保育士の合格率は約15%と、ハードルの高い資格となっている。
- 子育ての経験を活かし、保育士として働いてみたいが、上記のような理由から受験を躊躇してしまう。



3-1. 問題改善のための提案

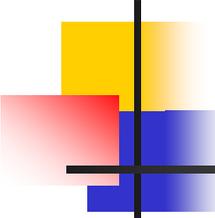
「準保育士」資格制度の新設

- 「準保育士」は保育士資格よりも受験科目の項目が少なく、受験勉強の時間・費用が軽減される内容とする。(実技試験の項目を除外する、など)
- 「準保育士」資格は学歴・実務経験に関わらず受験可能
- 「準保育士」の資格取得後児童の保護に2年従事の後正規の「保育士」資格受験を可能とする。
- 「準保育士」の配置も自治体からの補助金支給の対象とする。



3-2.期待される効果

- 保育士資格の受験希望者へ受験の機会を広げる。
- 有資格の増加により保育に興味があり、知識のある方たちの就職の機会を増やす。
- 現在の保育所の求人はほぼ「保育士有資格者」となっているが、これは専門の教育を受けていない人に預けることへの保護者からの不安も背景の一つ。新しい資格保有者を受け入れることで、保育所の職員数の確保と保護者の安心の両方につなげることが出来る。
- 準保育士 保育士というステップアップの機会を設けることで、保育に携わる人材のレベルアップにつながる。



4.まとめ

- 今回、私たちは「保育士の受験制度の緩和」という観点から、提案を行いました。これらの実施により保育士の数の確保、及び受験希望者数の増大につながることを大いに期待しております。2007年9月、私たちの実施したアンケート(*)では7割近くの方が「労働条件が合えば保育士として働くことを考えてみたい」と回答され、保育士は多くの方に興味を持っていただきやすい資格の一つであるといえます。また、同アンケートにおいては「知識・経験が豊富で熱意ある保育士の方に子供を預けたい」という声も多く聞かれ、社会人経験や子育て経験が豊富で意欲ある保育士育成の要望は今後ますます高まってくると考えられます。このような理由からも受験希望者へのより一層の門戸開放が必要になってくると言えます。
- しかしながら、保育士をより魅力ある仕事とし、就業希望者を増やすためには保育士の労働条件の改善も非常に重要になります。せっかく保育士養成施設を卒業し、保育士の資格をとって就職しても、賃金や労働時間などの就業条件が合わず2 - 3年でやめていく方が多く、結婚を期に退職をしても、このような条件から復帰が出来ない方が多いという現状があります。今後は、保育士の受験資格拡大だけでなく、保育士の就業環境支援も視野に入れながら、調査・提案を行っていく必要があると考えております。

(*)2007年9月、パソナのフリーメール購読者・パソナグループ社員へアンケートを実施。(別紙3参照)